

はじめての万葉集

日本に現存する最古の和歌集「万葉集」を
分かりやすくご紹介します

vol.146

みなぶち
南淵の
細川山に

まゆみ
立つ檀

まゆみ
弓束纏くまで

人に知らえじ

作者未詳 卷七（二二三〇番歌）

訳

南淵の細川山にはえる檀を弓にして、
束をまくまで人に知られるな。

飛鳥川の上流

南淵は飛鳥川の上流で、現在の明日香村稲淵一帯を指します。細川山は、明日香村細川の北方に位置する標高五二三mの山です。飛鳥川上流地域は、飛鳥から吉野宮への重要な交通路でした。

『日本書紀』天武五（六七六）年五月是月条に「南淵山・細川山を禁じて、並びに芻薪（くわしん）ることなかれ」との勅が出され、草木の伐採を禁じます。周辺を清寧に保つためですが、弓の材料に適した檀が多く茂っていたことを連想させます。

南淵には、南淵請安の邸があり、この地の出生と推定されます。推古十六（六〇八）年、請安は小野妹子を大使とする遣隋使に、留学僧として随行しました。この時の使節団には、高向玄理や僧旻（そうめん）らがいます。この後、請安は隋が滅んだ後は唐で学びました。舒明十二（六四〇）年、請安は玄理とともに帰国しました。隋に渡ってから、実に三十年以上の年月が過ぎていました。

帰国した請安は、隋・唐で学んだ知識を伝えるため、南淵の地に塾を開きました。その教えを受けた者の中に、中大兄皇子と中臣鎌足がいました。二人は皇極三（六四四）年正月以前から請安の塾に通っており、その途上で大化改新（乙巳の変）の計画を練ったと伝わります。

請安が伝えた知識は、大化改新に大きな影響を与えたと考えられています。しかし、乙巳の変後に請安の名前は見え、それ以前に死去したのではないかと推測されます。

なお、鎌足は蘇我入鹿暗殺の際に、弓を持って潜んだとされています。この時の弓の素材は請安の塾の近くで採れたものかもしれません。

（本文 万葉文化館 中本和）

万葉文化館イベント情報

奈良県立万葉文化館・奈良県立美術館連携企画展
「たびにしあれば 奈良県立万葉文化館・
奈良県立美術館コレクションから」
開催中（7月12日（日））

自らの住まう土地を離れて異郷へと向かう
「旅」をテーマに、『万葉集』から現代の作品
まで、時代の変遷する
旅のあり方を奈良
県のコレクションを
通して展覧します。

※国内の小・中学生
高校生・18歳未満
の人は無料。

※国内の65歳以上の
人は平日無料、土
曜・日曜は一般料金
になります。その他
割引など、詳しくは当館HPをご覧ください。



葛飾北斎「富嶽三十六景 相州七里濱」
奈良県立美術館蔵

●出張講座 万葉古代学講座 in 奈良
「古代日本の都」

7月11日（土）13時15分～16時30分
（12時45分開場） 無料・申込不要

「会場」奈良公園バスターミナル・レク
チャーホール

「講師」井上さやか（当館企画・研究係長）
中本和（当館主任研究員）
榎戸涉吾（当館研究員）

※詳しくは奈良県立美術館HPを
ご覧ください。

万葉集をよむ 無料・申込不要
7月15日（水）14時～15時30分

「雑歌（4）」

（巻9・1710～1725番歌）

「講師」井上さやか

（当館企画・研究係長）

「定員」150人（先着）

※アーカイブ配信

（翌日から1週間視聴可）

にぎわいフェスタ万葉夏

7月18日（土）～8月29日（土）

※詳しくは当館HPをご覧ください。



奈良県立万葉文化館

☎ 0744-54-1850

🌐 www.pref.nara.lg.jp/manyo